

2023年度 学校教育評価表

(伊香立小学校)

A: 3.0-2.5 B: 2.4-1.5 C: 1.4-0

項目	教職員により自己評価 (3:よくできた 2:できた 1:あまりできなかった 0:まったくできなかった)			保護者によるアンケート (3:そうである 2:どちらかといえばそうである 1:どちらかといえばそうでない 0:そうでない)			児童アンケート (3:そうである 2:どちらかといえばそうである 1:どちらかといえばそうでない 0:そうでない)			学校協力者評価 (3:そうである 2:どちらかといえばそうである 1:どちらかといえばそうでない 0:そうでない)			評価委員会 (3・2・1・0)						
	評価の観点	評定	昨年度	評価項目	評定	昨年度	評価項目	評定	昨年度	評価項目	評定	昨年度	評定	昨年度	意見・提案等	来年度に向けての改善点			
主体的・対話的で深い学び	1	2.4	B	2.1	子どもは、学校に行くのが楽しいと言っている	2.4	B	2.4	わたしは学校に行くのが楽しい。	3	A	2.5	子どもが元気に仲良く学校へ通う姿が見られる	2.6	A	2.7	2	2	評定の根拠 教・児・保・協の評定平均が2.35のため。
	2	2.4	B	2	子どもは、授業(体育以外)が楽しく分かりやすいと言っている	2	B	2.1	わたしは勉強していることがよくわかっている	2	B	2.4							
	3	2.2	B	2.2	主体的・対話的で深い学びを追究する授業研究や研修会														
道徳教育の充実	4	2.4	B	2.4	生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳実践力を育てる活動の実施	2.2	B	2.3	わたしは、学校のきまりを守っている	2	B	2.5	子どもは、学校生活を通して人に優しく、相手を思いやる気持ちが育っている。	2.4	B	2.2	2	2	評定の根拠 教・児・保・協の評定平均が2.34のため。
	5	2.2	B	1.9	道徳科の授業・評価に関する研究や資料の開発・整備・交流				わたしは、困っている人や小さい人に親切にしている	2	B	2.5							
	6	2.5	A	2.1	保護者等への道徳科の授業公開	2	B	2.1	わたしは、道徳の勉強は大切だと思う	3	A	2.8							
体力づくり	7	2.2	B	2.2	たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善	2.3	B	2.5	子どもは、体育の授業が好きである	3	A	2.7	わたしは、体育の勉強が好きである	2.4	A	2.5	2	2	評定の根拠 教・児・保・協の評定平均が1のため。
	8	2.2	B	2.3	体力づくりを推進する運動実践														
	9	2	B	2.3	体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする意欲の育成	2.4	B	2.5	わたしは、学校の勉強以外でも体を動かすことが好きである	3	A	2.6							
指導改善 (組織的・計画的)	10	2.2	B	2.1	学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善	2.1	B	2.2	先生は、学力の定着のためにきめ細かな指導をしている。	3	A	2.7	先生は勉強をわかりやすく教えてくれる。	2.8	A	2.7	2	2	評定の根拠 教・児・保・協の評定平均が2.37のため。
	11	2.3	B	2.1	教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上	2.3	B	2.4	学校は、子どもの学習や生活の様子を、分かりやすく正しく評価している。	2	B	2.7	担任(たんにん)の先生(せんせい)だけでなく、いろいろな先生が注意してくれる	2.5	A	2.5			
	12	1.8	B	2	働き方改革の取組と教育活動の質の改善														
育ちと学びを支える連携																			
① 家庭・地域・協働との連携	13	2.5	B	2.2	保護者の子育てに対する積極的な支援	2.1	B	2.4	学校は、気軽に相談したり訪問したりできる雰囲気がある。				学校は気軽に訪問しやすい雰囲気がある。	2.6	A	2.6	2	2	評定の根拠 教・児・保・協の評定平均が2.48のため。
	14	2.2	B	2.4	保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用	2.2	B	2.2	学校は、教育目標やめざす子ども像を分かりやすく伝えている。	2.3	B	2.4	学校は、保護者と連携・協力して子どもを育成しようとしている。	2.9	A	2.7			
	15	2.3	B	2.2	防災教育の推進、感染症対策の推進等、安心・安全な学校づくり	2.5	A	2.4	学校は、避難訓練や感染症対策等安心・安全な学校づくりに取り組んでいる。	3	A	2.9	学校は、避難訓練は大切だと思う	2.6	A	2.6			
	16	1.8	B	1.6	子どもの校種間交流や教員の出前授業	2.4	B	2.5	わたしは、避難訓練は大切だと思う	3	A	2.5	わたしは、コロナやインフルエンザにからないように手洗いをしっかりとするなどいつも気をつけている	2.5	A	2.5			
	17	2.2	B	2.2	校種間の授業公開や合同研修会														
② 保幼小中の連携	18	1.5	B	1.5	保幼小中の接続期の教育課程の編成等校種間のカリキュラム研究														
組織的体制の充実																			
① 生徒指導体制の充実	19	2.3	B	2.5	いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導 ※	2.3	B	2.4	先生は、いじめや仲間はずれを許さない姿勢で指導している。	3	A	2.7	先生は、みんなのいけないうちや間違ったことを叱ってくれる。	2.5	B	2.3	2	2	評定の根拠 教・児・保・協の評定平均が2.43のため。
	20	2.2	B	2.4	生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進 ※	2.2	B	2.3	先生は、子どものよさや努力したことを認めようと心がけている。	3	A	2.7	先生はみんなのよいところやがんばったことを褒めてくれる。	2.3	A	2.6			
	21	2.4	B	2.3	家庭・地域・関係機関との連携による指導	2.2	B	2.3	先生は、子どもの心配や悩みを理解し、誠実に対応している	2	B	2.5	先生は相談しやすい。	3	A	2.9			
	22	2.4	B	2.2	個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用	2.3	B	2.4	わたしには、友だちがたつきんいる。	2	B	2.4	わたしは、進んであいさつをすることが出来る。	2.3	B	2.1			
② 特別支援教育の充実	23	2.5	A	2.3	組織的・計画的な特別支援教育体制の確立												2	2	評定の根拠 教・児・保・協の評定平均が2.4のため。
	24	2.3	B	2.4	関係機関と連携した相談体制の充実														

※ 特にいじめについては、学校基本方針の評価と関連させて行うこと

学校満足度	25	児童生徒の学校満足度	2.5	2.5
-------	----	------------	-----	-----

※ 児童生徒アンケートのすべての評価の平均値 (3点満点、小数第2位まで記入)	2.50
※ 保護者アンケートのすべての評価の平均値 (3点満点、小数第2位まで記入)	2.25

別紙参照

項目	評価委員会 (3・2・1・0)		
	評定	昨年度	意見・提言等
主体的・対話的で深い学び	2	2	<p>評定の根拠 教・児・保・協の評定平均が2.35のため。 総合的な評定は、わずかではあるが、昨年度よりも0.05ポイント上がっている。 ペアやグループの形態での話し合いを取り入れたり、プレゼンテーションの際にタブレットの活用を行ったりと、それぞれのクラスで工夫した授業作りや学級作りができており、おおむねの児童は満足している。今後も、更に学びに向かう学級づくり、そして子どもが安心して学び過ごせる学級づくりに取り組まなければならない。</p>
道徳教育の充実	2	2	<p>評定の根拠 教・児・保・協の評定平均が2.34のため。 総合的な評価で見ると、わずかではあるが、昨年度よりも0.03評価が上がっている。 ①各クラスで、言葉遣いの指導していることもあり、「正しい言葉づかい」が少し意識できていたと考えられる。しかし、まだまだ、人を傷つける暴言を聞くこともあり、正しい言葉の指導は継続して行っていくべき。 ②今年度は昼休みのみんな遊びや運動会の縦割り競技等、縦割り活動を行うことができた。その中で、上学年が下学年の面倒をみたり遊んだりする姿も多く見られた。 ③道徳科では、今年度も中学校と合同で研修を行うことができた。参観で全クラス道徳の学習を公開ができ、その様子も通信などで発信することもできていた。ただ、研究が深まるようなところまでできていないので、今後の課題である。</p>
体力づくり	2	2	<p>評定の根拠 教・児・保・協の評定平均が2.31のため。 総合的な評価で見ると、昨年度よりも0.14ポイント評価が下がっている。 ①今年の運動会は一日開催であり、全校児童が一同に集まって行うことができたことや縦割り競技で異学年との交流が図れたりした。しかし、昨年度よりも総合的な評価で下がっており、次年度は児童にとって魅力ある学習活動になるよう授業や取り組みの工夫改善を行ったり、全校で1つの目標に向かって取り組めるような活動を仕組んでいったりしていきたい。 ②本校の体力テストでは「投げる力」に課題が見られる。「投げる力」育成に視点を置いた活動を取り組んでいく必要がある。 ③今年度、冬場の縄跳びをしている様子があまり見られない。児童が主体的に取り組めるような工夫が必要である。</p>
指導改善 (組織的・計画的)	2	2	<p>評定の根拠 教・児・保・協の評定平均が2.37のため。 総合的な評価で見ると、昨年度よりも0.01ポイント評価が下がっている。 ①授業研究では、昨年度と同様外部講師を招聘し、国語の振り返りをテーマとした中身の濃い研究が進められた。授業研究以外にも教職員の指導力向上として、不祥事防止研修や防災研修、ICT研修等多岐の分野で行うことができた。OJTも積極的にでき、指導力の向上につながった。次年度も短時間で良いので、OJTの時間を確保していくべき。 ②教職員数が少なく厳しいところではあるが、全体の学力を高めるため、学力向上の取組を行ったり指導體制を整えていったりする必要がある。 ③宿題の出し方や引き継ぎに対して不十分などところがあると保護者からご意見をいただいている。</p>

来年度に向けての改善点

①次年度も今年度の『振り返り』に焦点を当てたテーマを深めていく。長期休業中の外部講師に来ていただく研修を行う。
②学習規律の基本的な姿勢(人の話を聞く、話し方等)を大切にしてい
③対話的な活動を行うために、系統だった話型を参考にしてい

①発達段階に合わせて「言葉づかい」の指導を行う。
②縦割り活動も時間を精選(学期に2回程度)して次年度も行う。また、3月の縦割り活動では、リーダーを5年生にバトンタッチし行う。
③年に1回以上は道徳の授業公開を行う。道徳の研修を計画的に行う。(OJT研修等)また、道徳の学習について通信や週予定等で積極的に発信していく。

①次年度の運動会も平日で開催を行う。内容は今年度と同様で半日で行う。5校時は各教室で振り返りを行い、その後、下校する方向で。
②児童が自由に使用できるボールを用意する等、投げる力を高めるための環境作りに努める。
③縄跳びの取り組みを盛んにするため、ランキングを作ったり縄跳びカード(低・中・高)を工夫したりする。

①今年度同様に、計画的にOJT研修や長期休業中の研修を行う。また、授業研究では今年度のテーマ「振り返り」を深めていく。
②各学年の課題に合った取り組みをパワーアップの時間(【例】1学期:基礎基本 2学期:ワークシート等)に行う。また、苦手な単元を宿題やガテンプリント等で強化を図る。
③学年・発達段階に応じた宿題を出す。自主学習も「学習のヒント」のようなものを出して実施する。自習時の引き継ぎをしっかりと行う。

育ちと学びを支える連					
①	家庭・地域との連携・協働	2	2	<p>評定の根拠 教・児・保・協の評定平均が2.48のため。総合的な評価で見ると、昨年度と同じである。</p> <p>①HPやtetoru、学校通信などを活用し、定期的に児童の様子や学校での取組を発信することはできている。ただし、HPの「学年の様子」では、各学年によって発信する頻度にばらつきがある。</p> <p>②夏休みの課題について、保護者アンケートより「子どもの力に合った課題を」という意見があった。</p> <p>③登下校について、登校班での方法にもどしてほしいとの意見があった。次年度も、児童の状況を考え、町委員さんとも連携をとっていく。</p>	<p>①HPの学年の様子発信に関しては、月に1回以上は発信するよう心がける。また、宿泊事業の時も積極的に発信する。</p> <p>②夏休みの課題について、学年の発達段階や課題に合ったものを行う。毎年、見直す。</p> <p>③年度当初は集団登下校を行う。児童の様子を見て、町委員さんと連絡を取り合い、登下校の方法を変えていく。</p>
②	保幼小中の連携	2	2	<p>評定の根拠 教・児・保・協の評定平均が1.83のため。総合的に評価が低い。</p> <p>①学校夢づくりプロジェクトにおいて、地域、小中学校、保育園、幼稚園が一堂に集まり、イベントが実施できたことは良かった。また、2月後半には、1年生と五歳児さんとの交流予定。そして、保幼小中職員の交流では、一部の職員に偏りがちな為、全職員に情報を共有していく必要がある。</p> <p>②保幼小の接続のカリキュラムの話し合いを2月後半行う予定。また、道徳科を柱とした小中合同研修会を昨年度に引き続き実施することができた。</p>	<p>①来年度も地域や保幼小中が集まり、伊香立らしい活動を行う。また、3学期には入学前の園児と小学生(1年生)との交流を行う。</p> <p>②次年度も小中合同の研究取組みを行うが、テーマについては次年度の小中連携会議にて決定する。また、6年生児童と中学との関わり(中学校見学・出前授業等)を1学期から始める。</p>
組織的体制の充実					
①	生徒指導体制の充実	2	2	<p>評定の根拠 教・児・保・協の評定平均が2.43のため。総合的な評価で見ると、昨年度よりも0.01ポイント評価が下がっている。</p> <p>①本年度は児童会が中心となって、「いじめゼロ！」の啓発活動のため、ハンカチを作成し全校に配布した。</p> <p>②「正しい言葉づかい」が少しポイントが上がったとはいえ依然としてポイントが低い。今後も、正しい言葉づかいができる子どもの育成に学校全体で取り組まないといけないと考える。</p> <p>③教育相談は子どもたちの変化や悩みを早期に把握できる大切な時間である。担任と子ども、時には子ども支援コーディネーターやスクールカウンセラーともゆったり話ができる時間を設けていかなければならないと考える。</p> <p>④子どもサミットの提案を受け、全校遊びを行えた。</p>	<p>①いじめ防止月間である10月に児童会中心(子どもからの提案)の取組みを行う。</p> <p>②正しい言葉について、日々の継続した指導を行う。学習中と休み時間との使い分けの指導を行う。また、暴言は許さないという雰囲気を作る。</p> <p>③児童と落ち着いて向かい合うために、時間の確保するための工夫を行う。</p>
②	特別支援教育の充実	2	2	<p>評定の根拠 教・児・保・協の評定平均が2.4のため。総合的な評価で見ると、昨年度よりも0.1ポイント評価が上がっている。</p> <p>①堅田少年センターや特別支援教育室等、関係機関と連携し、支援の必要な児童に対応することができた。支援のあり方についても助言をいただき、学校としての体制作りにも生かすことができた。作成した個別指導計画は、定期的に行う懇談の中で見直しを行い、家庭との連携を図ることができた。</p> <p>②支援COを中心に校内就学指導委員会を開催したり生活支援員さん等の配置を工夫したりして組織的な対応ができた。</p>	<p>①次年度もケースによって様々な関係機関(北大津養護学校・教育支援センター等)とも連携していく。</p> <p>②支援の必要な児童に対し、計画的に組織的な対応を行う。</p>